

八峰CS通信

平成29年度
第 8 号
H29/7/19 文責
CSディレクター
川尻

地域みんなで子どもたちの未来を考える

ワークショップのすすめ

左の表及び下の文は文部科学省委託事業の「ワークショップ実践報告」から抜粋です。コミュニティ・スクール推進上で大切な

「学校協働」の意義やメリットが示されています。子どもだけでなく、保護者・教職員・地域住民にとってのメリットがある

「学校協働」の意義やメリットが示されています。子どもだけでなく、保護者・教職員・地域住民にとってのメリットがある

「協働」はとても大切な概念です。そして学校と地域が協働していくことは大事なことです。しかし協働は、第三者からの要請で築いていくものではなく、必要に応じて自ら育まれていくものだと考えられます。異なる立場にあるものが参加し、関わって良

「健闘祈る！」全県総体・吹奏楽激励会（八峰中）

学校協働のメリットは？

子ども・保護者にとって	学校の教員にとって	地域の人々にとって
地域のいろいろな人が学校に関わるため、学びに多様性が生まれます。 地域の大人に見守られることで、子どもが地域とのつながりを実感し、安心感が生まれます。	地域との信頼関係が深まり、教育に参加してもらうことで、教育活動に厚みを生み出せます。 地域に目を向けて、多様な人々と関わる経験は、教員の知見を広げることにもなり、指導力の向上が期待できます。	子どもたちが地域の一人という意識を深め、ふるさとへの愛情が深まります。 地域の人々がつながる場として学校が機能することで、地域のネットワークが形成されます。

ワークショップのポイント

1 参加者が緊張することなく、またフラットな関係性の中で自由に発言できる場を作ります。	5 学校の困りごとに着目し、「一緒に解決しよう」という意識を高め、一体感やワクワク感、当事者意識を生み出します。
2 異なる立場の関係者が子どもたちを核としたビジョンについて語り合います。	6 参加者全員で気付きや意気込みを共有し、ワークショップの集いが継続していくように気運を高めます。
3 参加者が自由に語り合い、思いや願いを共有する中で、目指す方向性を共有します。	7 主催者は、参加者からビジョン共有のために出されたアイデア・感想を真摯に受け止めます。
4 参加者は一部の組織や役職者などに偏らず、様々な年齢や肩書き、立場で構成します。	8 主催者は「地域とともにある学校づくり」の推進に対する覚悟と本気を参加者に示します。



海光苑のお年寄りと優しい気持ちで交流（八森小4年）



「たくさんサシェを作るぞ」ポンポコ山でラベンダー摘み（峰浜小4年）



海の環境を守るため、まずはイルカの生態を学ぶ海洋教育（八森小6年）



「健闘祈る！」全県総体・吹奏楽激励会（八峰中）

学校×地域の協働の機運をたかめるために

のどつしが、互いの立場や特性を分かち合い、結果につながるような熟議のテーブルを作ることが大切です。

（中略）

本質的な協働体制を構築するには、「熟議」だけではなく、熟議から育まれる新たな関係性を軸に実際に行動にうつしていく等といった、より良いカタチに発展させる「マネジメント力」が重要です。